

## 国際バカロレアにおける概念学習の概要 —PYP社会科を例として—

佐々木南実（筑波大学教育研究科教育学（国際教育）修士プログラム大学院生、  
国際バカロレア機構 前Japanese Translation Lead）

【キーワード】 国際バカロレア，社会科，概念学習

### 1. 国際バカロレアの日本への導入

新学習指導要領の全面実施を目前に、課題探究的学習を通して生徒に汎用性のある資質・能力（21世紀スキル）を教えることが教員に求められ始めている。21世紀スキルを提唱する重要な思想家たちとしては、チャールズ・ファデル、バーニー・トリリング、ケン・ロビンソン、ハワード・ガードナー、アンディ・ハーグリーブスなどをあげることができる。その研究はOECD（経済協力開発機構）、IBO（国際バカロレア機構）、アメリカのPartnership for 21st Century Skills(註1)などに大きな影響を与え、世界的な潮流を作り出している。日本の新学習指導要領にも影響を与えている。

日本の一条校においても導入が進む国際バカロレアプログラム（以下、IB）は、21世紀スキルを教えるためのツールとしても期待される。日本におけるIBプログラムの導入に関する議論は、歴史的には教育の国際化、帰国子女教育の文脈の中で語られてきた経緯がある。しかし、経済界からのグローバル人材育成の要請を受け、現在では「グローバル化に対応した素養・能力を育成（文科省2018）」できるプログラムとして、グローバル人材育成推進施策のひとつとして語られることが多くなった。2017年に文科省で開催された「国際バカロレアを中心としたグローバル人材育成を考える有識者会議」では、IB認定校の増加のみならず、「IBの良さを取り入れた教育」（国際バカロレアを中心としたグローバル人材育成を考える有識者会議2017:6）が普及する意義についての議論も、今後の検討課題のひとつとしてあげられた。

### 2. IBにおける汎用的能力の指導と学習

それでは、IBにおける汎用的能力の指導と学習は具体的にはどのように実践されているのだろうか。IBOからは各プログラム、教科ごとの詳しい「指導の手引き」が発行されているが、本稿では3歳から12歳を対象とするIB初等教育プログラム（以下、PYP）の指導の手引きである「PYPのつくり方」（IBO2007）の内容を引用しながら、そ

の内容の一部を概説することを試みる。PYPを例に取る理由は、外部試験がないPYPプログラムは、IB教育の最も原型に近い形、つまりいわゆる「IBの良さ」を最も明確に観察することのできるプログラムであると考えからである。

PYPの指導計画には、基本要素(エッセンシャル・エレメント)として、「知識」、「概念」、「スキル」、「姿勢」、「行動」があり、この5要素がバランスよく配置されていることが求められる。本稿では、この中から「概念」の用いられ方について見て行く。

#### 「概念」の用いられ方

IBプログラムに取り入れられている重要な理論のひとつとして、リン・エリクソンの概念学習(Conceptual Understanding)がある。エリクソンの理論においては、学習者は概念のレンズを通して探究を進める。つまり、単元ありきで指導と学習が始まるのではなく、学ばせたい概念から指導案を練り上げて行き、その結果、それが単元名と一致することもあれば、しないこともある。概念をバランスよく配置して行くことで、学際的に全人的な学びを構築することを目標とする。また、この概念は全教科に共通しているため、教科横断的な指導計画に使いやすい。

PYPでは、7つの学際的な概念が定められている。概念は質問の形にすると、オープンエンドな探究学習のツールとしてそのまま使用することができる。「特徴（どのようなものか）、機能（どのように機能するのか）、原因（なぜそうなのか）、変化（どのように変わっているのか）、関連（どのようにつながっているのか）、視点（どのような見方があるか）、責任（どんな責任があるのか）、振り返り（どのようにして知るのか）」である。これを教科と合わせて統合した姿が図1である。

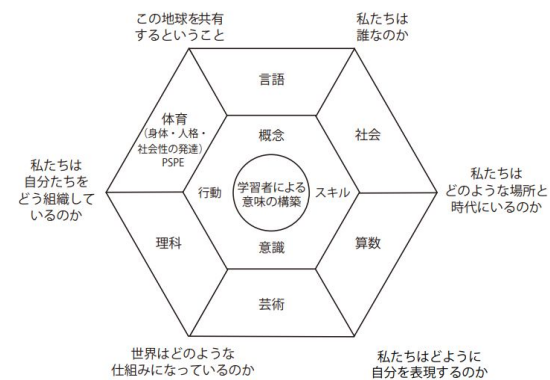


図1 PYPの基本要素の統合

出典:「PYPのつくり方」(IBO2016:66)

重要概念を社会科における問いに落とし込むと、それは例えば以下ようになる。

表1 「重要概念」を表す問いの例

特徴	それはどのようなものか
	この町に住む人たちの主な職業は何ですか
機能	それはどのような働きをするのか
	人はどのようにお祝いしますか
原因	それはなぜそうなのか
	争いとその解決はどのように社会を形づくってきましたか
変化	それはどのように変わっているのか
	技術はどのように自然環境を変えてきましたか
関連	それは他のものとどのようにつながっているのか
	当時の社会と今の社会につながりがあるとしたら、それは何ですか
視点	それにはどのような見方があるか
	人はどのようにリーダーになってほしい人を決めるのですか
責任	私たちの責任は何か
	世界中の子どもたちはどのような権利をもつべきですか

振り返り 私たちはどのように知るのか

私たちや他の人の意見はどのくらい信用できますか

出典:「PYPのつくり方」(IBO2016:124-5)

PYPの指導計画においては、以上のような概念を念頭に置いた内容と、スキル、行動、態度というような他の内容が網目状に組み合わせられる。これらの要素と、各教科の知識を組み合わせ、相乗効果を狙う。このアプローチは、アクティブ・ラーニングのような実施方法に主眼を置くものとは違い、形骸化する危険性も低いといえる。IB校での実践を通して、さまざまな理論が日本の教育現場に種を落とし、日本の文化文脈に沿ったかたちで開花することが今後も期待される。

【参考文献】

国際バカロレア機構 (2016) 『PYPのつくり方：初等教育のための国際教育カリキュラムの枠組み』

国際バカロレアを中心としたグローバル人材育成を考える有識者会議 (2017) 『国際バカロレアを中心としたグローバル人材育成を考える有識者会議中間取りまとめ』

佐々木南実 (2019) 『筑波大学大学院平成30年度修士論文「教員の実践コミュニティ」に関する研究-国際バカロレア認定校における事例研究を中心に-

』  
文部科学省 (2018) 「2019年度概算要求 会議資料」

Erickson, Lynn H. 2011. Synergistic Thinking and Conceptual Understanding in the IB Programmes, [https://www.ibo.org/contentassets/477a9bccb5794081a7bb8dd0ec5a4d17/lynnrickson\\_ib\\_kynote\\_hague\\_oct\\_2011.pdf](https://www.ibo.org/contentassets/477a9bccb5794081a7bb8dd0ec5a4d17/lynnrickson_ib_kynote_hague_oct_2011.pdf)

【註】

註1: 2002年に設立された、アメリカ連邦教育省が出資し民間企業と教育関係者によって成る、21世紀スキルの普及推進団体